



こもれび

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2019 春号

地域に信頼され、親しまれる病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けしたいと思います。

初夏のバラ
撮影 地域医療支援センター 森本

Contents

- 平成31年度 長崎県島原病院新年度の取り組み
長崎県島原病院 院長 徳永 能治 2
- 新任医師紹介 3
- 専門医に聞く
血液内科診療再開に寄せて
血液内科 堀尾 謙介 4・5
- 部門トピックス
医療安全管理室感染管理対策班
長崎県島原病院の季節性インフルエンザ対策 6・7
- 連携医療機関のご紹介
北有馬クリニック 7
- 外来診療一覧 8

病院理念

患者さん本人の立場に立った医療

病院指針

1. 早期診断、早期治療、早期リハビリテーションを医療の基本指針とします。
2. 診療にあたっては、インフォームド・コンセントを基本にして、患者中心の医療を展開します。
3. 早期退院と医療の継続を目的に病診連携、保健福祉の連携など、地域につながるチーム医療を展開します。
4. 地域医療を支援する施設として、常に医療水準の向上に努めます。
5. 経営基盤の確立に努め、協働、相互扶助、相互啓発を職場の規範として活力ある病院づくりを進めます。

長崎県島原病院 新年度の取り組み

私たちが目指す医療 地域医療の向上に寄与すること

長崎県島原病院 院長 徳永 能治



当院は、昭和41年「長崎県立島原温泉病院」として開設されました。その後地域の要望に応えるために病院機能を拡充し平成14年に「長崎県立島原病院」に名称を改め新築いたしました。

平成21年4月、長崎県と島原半島3市を含む5市1町で構成する長崎県病院企業団の設立に伴い、長崎県から長崎県病院企業団へ移管され、名称も「長崎県島原病院」と改め地域の中核病院としての役割を果たすため、日々努力しております。

創立52年を経過し、私たちが目指す医療「地域医療に寄与すること」をタイトルとし、下記5つの病院目標や患者さんの権利と責任を掲げ、職員全員が一致団結して地域医療の向上に貢献いたします

病院目標

- 1 **島原半島内の健康に関する諸機関との連携を推進します。** 即ち、救急車、かかりつけ医、介護施設、福祉施設、市民からの患者受け入れ態勢を進めます。また、各施設等との双方向の情報交換を密にし、相互の役割分担や連携を推進し、地域完結型医療体制を目指します。
- 2 市民公開講座を島原半島各地で継続実施し、電子カルテ共有システムである島原メディカル・ケアねっと、ホームページ、情報誌、ラジオ、テレビなどの**いろいろなメディアを使い地域の皆様の役に立つ情報発信の活性化を推進いたします。**
- 3 診療報酬改定に速やかに対応し、電子カルテデータ等に基づく正確迅速な診療情報分析システムを構築し、**安定した健全な病院経営を目指します。**
- 4 職員の業務、教育研修、待遇改善活動を行い、**地域の中核病院として質の高い人材育成、医療の提供を目指します。**
- 5 **病院職員が働きやすい職場づくりに取り組みます。**

とりわけ**救急医療、がん医療**は地域医療の中核をなすものであり、今後とも継続的な充実を図っていきます。

地域の皆様に信頼され、親しまれる島原病院を目指して努力してまいりますので、今後ともなお一層のお力添えを賜りますようよろしくお願いいたします。

患者さんの権利と責任

- 個人の尊厳を守られる権利があります。
- 公平で適切な医療を受ける権利があります。
- 診療内容について、正確で分かりやすい説明を求め、真実を知る権利があります。
- 十分な説明を受けた後、自らの意志で検査・治療に同意し、あるいは拒否する権利があります。
- 個人情報を守られる権利があります。
- 最善の医療を実現するために、自ら積極的に医療に参加する責任があります。



血液内科診療再開に寄せて

血液内科 堀尾 謙介

読者の皆様、初めまして。本年4月より常勤医として赴任いたしました、血液内科の堀尾謙介（ほりおけんすけ）と申します。

当院は、1966年（昭和41年）に長崎県立島原温泉病院として開設され、その後長崎県立島原病院、長崎県島原病院への改称を経て、地域の中核病院として50年を超える歴史を持つ病院です。

血液内科の関わりとしては、1990年（平成2年）4月～：糸山医師、1992年（平成4年）6月～：塚崎医師（1994年（平成6年）6月～1996年（平成8年）5月は欠員）、1996年（平成8年）6月～：林原医師、1999年（平成11年）4月～：本多医師、2001年（平成13年）5月～：松尾裕司医師、2007年（平成19年）6月～：小川医師（2012年（平成24年）1月より血液内科として正式に標榜）、が勤務し、地域の血液疾患診療に従事して参りました。

しかし、2018年（平成30年）4月以降は欠員となり、外来診療応援はあるものの、入院が必要とされる場合などは、長崎大学病院・長崎医療センター・諫早総合病院などに依頼せざるを得ず、患者様のみならずご家族の負担を強いる状況となっていました。

今般の診療再開にあたり微力ながら尽力させていただく所存です。

さて、当科について簡単にご紹介いたします。

急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの悪性腫瘍から、再生不良性貧血・骨髄異形成症候群などの骨髄不全、特発性血小板減少性紫斑病・血友病などの出血性疾患を含めた血液疾患全般を対象として、診療ガイドラインを拠り所とするエビデンスに基づいた治療を目指しています。

昨今の高齢化に伴い、ご多分に漏れずここ島原半島でも血液疾患をお持ちの高齢者が増加しています。特に、多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群・低悪性度悪性リンパ腫はその傾向が顕著と言われており、また高齢者の急性白血病も決して稀ではありません。

よって、年齢・合併症などから、ガイドライン・マニュアルをそのまま適応して治療するのは困難なことも多く、全身状態・臓器予備能や、家庭環境などの社会的要因も考慮し、患者様ご自身やご家族と相談して最善の治療法を選択するなど柔軟な対応にも努めています。

また、少なからず若年者の急性白血病・悪性リンパ腫も経験いたします。治療戦略に造血幹細胞移植が組み込まれることがあり、必要に応じて高度医療機関と連携し切れ目ない治療継続を提供しています。

入院での治療は、主に4階東病棟で行います。急性白血病や再生不良性貧血など高度の白血球減少を来す患者様を感染症から守りながら治療を行うため、HEPA フィルターを通して換気を行うことにより空気中の菌をできるだけ減らした、空気清浄度の高い「クラス100無菌室」1床・「クラス10000 無菌室」1床も備え、安全な環境下での対応が可能です。

また、看護部・検査科・放射線科・薬局・リハビリテーション科・栄養班・地域医療支援センターなどの各部門とも密接に連携を取り、職種の垣根を越えた体制づくりを深めることにより最良の診療を提供することを目指しています。

最後に、今後の抱負を述べさせていただきます。

治療はまさに日進月歩の発展を見せており、新しい治療薬が次々に開発され、臨床の場でも導入が進んでいます。当科においても使用できる体制を今後とも整えます。

また、外来化学療法も積極的に再開し、生活の質の維持・向上を目的とした、自宅で生活を送りながらの抗がん剤による治療も継続的に提供します。

長崎県病院企業団のスローガンである“郷診郷創”「地域での受診が、地域を創る」、また「島原地区の患者様は島原地区内で治療ができること」を目指し、診断から最後（最期）まで一貫性のある診療を目指します。

これからも引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

外来日 月・木

上記以外でも適宜対応致しますので、急を要する場合はご相談ください

骨髄バンク登録のお願い

同種造血幹細胞移植の実施には、患者様に対する造血幹細胞の提供者（ドナー）が必要です。非血縁者間のドナーを希望される際は、公益財団法人日本骨髄バンクに登録することとなりますが、献血ルーム・保健所（要予約）・献血バスとの併行登録会（不定期）にて受付しておりますので、皆様のご理解・ご検討の程よろしく願いいたします。

なお、骨髄・末梢血幹細胞の提供にあたっては、ドナーご自身の健康状態を調べる「確認検査」や、ドナーとご家族のお気持ちについて最終確認を行う「最終同意面談」のために医療機関にご足労いただく必要があります。今般調整医師所属施設として委嘱を受けましたので（2019年5月現在調整医師、長崎大学病院4名、長崎医療センター2名、佐世保市立総合医療センター1名、当院1名）、近隣でのドナー候補の負担軽減に寄与できるよう努める所存です。

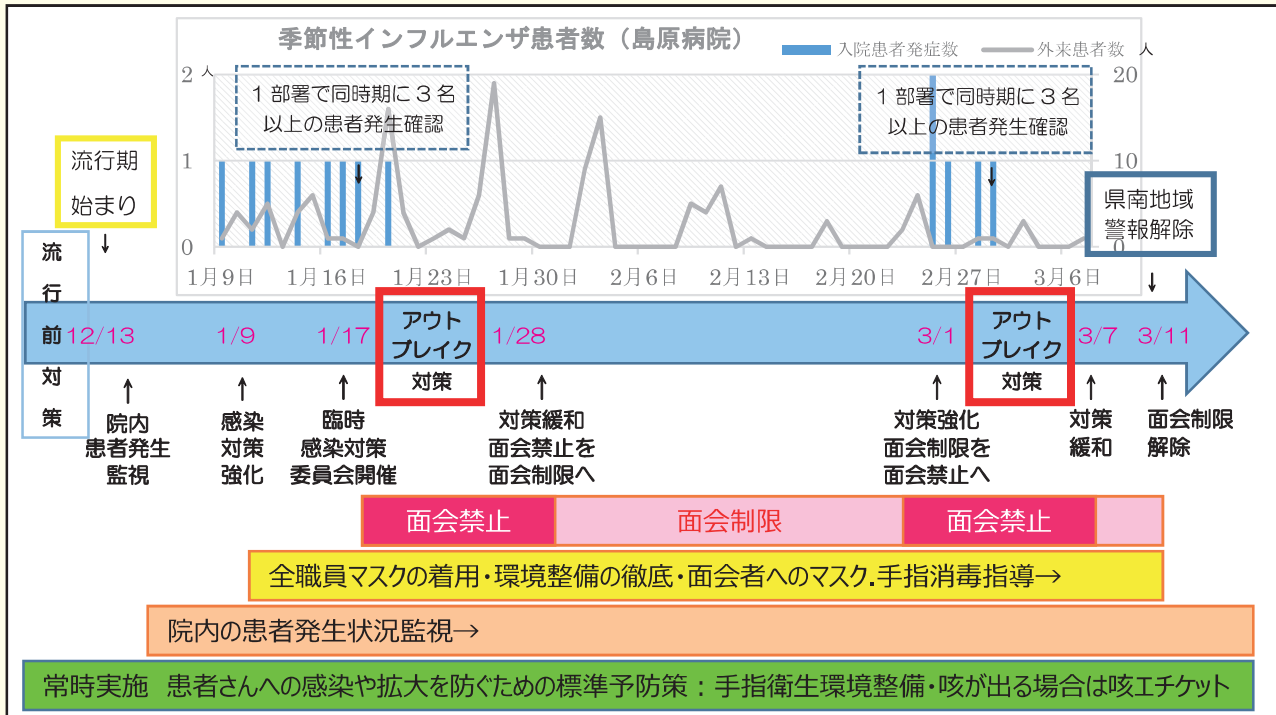
医療安全管理室
感染管理対策班

長崎県島原病院の 季節性インフルエンザ対策

感染管理対策班医長 中島 章太
感染管理認定看護師 坂本美咲子

季節性インフルエンザは、乳幼児、高齢者、気管支ぜんそくや慢性呼吸器疾患、心臓病や糖尿病などの基礎疾患がある人々では合併症がおこりやすく、致命的となることがあるので感染対策は重要です。

2019年初め、当院ではインフルエンザの病院内複数発生（アウトブレイク）を経験し、面会禁止の対応策を初めて実施しました。その経過と対応策と効果についてまとめました。



1. 流行前の対策
 - 全職員へのワクチン接種 咳エチケットの啓発 インフルエンザの知識を周知
2. インフルエンザ流行期始まり
 - 病院内（玄関・エレベーター・病棟・受付・会計）啓発ポスターの掲示とマスクの準備
 - 電子掲示板でも啓発用の「お知らせ」
3. 流行状況注意報・警報レベル
 - インフルエンザの患者発生の監視体制（職員の発症・インフルエンザ患者の入院・入院患者の発症が、あった場合には感染管理対策班に報告）
 - 予防策：職員は出勤時に健康観察して発熱・風邪（上気道）症状がある場合受診を推奨
 - 発熱・風邪症状がある患者対応時にはサージカルマスク着用
 - 入院中の患者から発生後はすべての職員はマスクの着用と手指消毒の徹底
 - 同室患者には、主治医がマニュアルに沿ってインフルエンザの予防投薬を検討
4. アウトブレイク察知
 - 「同一病棟で4週間以内に3例の患者発生があった場合には患者対応、感染経路の特定をICT（感染対策チーム）でします。」
5. アウトブレイク対策 人と交わることで感染が拡大するため人の動きを制限します。
 - ・患者さんの病棟外への移動の制限、食堂（デイルーム）閉鎖
 - ・面会禁止措置 家族、外部からの来院者と患者との接触がないように面会をお断り
 - ・リハビリも外来リハビリと、院内患者さんのリハビリは分けて実施
 - ・患者さんの外出外泊制限

- ・面会禁止措置を実施していることをポスター・電子掲示板・各病室のドアに掲示
- ・休日の玄関開放時間を短縮（小児休日外来時間のみ開放）
- ・院内放送（平日 10:00 14:00）

6. 感染対策の対策緩和の基準について

アウトブレイクの終息は、潜伏期間の2倍（6日間）を超えて新しい患者発生がない事を確認します。面会禁止から面会制限へ変更したことをポスターや、電子掲示板、院内放送で知らせました。

面会は、家族、身の周りのお世話をされる方の方に限定し、面会時間を短時間に緩和しました。中学生以下のお子さんや、家族以外の方は引き続きお断りをして、外部の人との接触が極力ないように配慮しましたが、面会制限を遵守することが不十分であったため、同じ病棟から複数名の患者発生があり、再度面会禁止措置を実施することとなりました。

感染対策は日頃からの対応が重要ですが、季節性インフルエンザのように、地域で大流行している場合には、院内の対策だけではアウトブレイクを終息させることが大変難しいことを今回学びました。流行期間中に面会の制限を実施しましたが患者さん、ご家族の皆様のご協力があったって感染拡大を防止することができ、病院の機能を維持することができました。皆様への情報提供が不十分であったため、大変ご迷惑をおかけしました。今後も院内教育を強化して行くとともに、地域の皆さんに向けて、ホームページなどでタイムリーに情報発信していくように努めたいと考えています。



病棟ステーション前



食堂テイルーム入口



面会者用
エレベーターホール



正面玄関



ペット用エレベーター前



総務前電子掲示板
(職員に対して)



外来待合室電子掲示板

連携医療機関のご紹介

これからの医療は役割分担と連携が大切！
いつもご協力いただいている地域の医療機関をご紹介します。

北有馬クリニック

院長 佐藤 哲也先生

南島原市北有家町己760番地1 ☎0957-65-7100

信頼される医療と介護の提供

平成15年12月に、北有馬で開業いたしました。

「信頼される医療と介護の提供」を医療理念とし、患者様の立場に立った思いやりのある暖かい診療所づくりをめざしております。

私の専門は消化器で、特に胃カメラ、大腸カメラ、腹部エコー検査を積極的に行っております。これまでの経験を生かしながら、内科、外科一般の幅広い診療と治療を行う総合診療科として、

また、かかりつけ医として、患者さま一人一人に十分な説明を行い、これからもスタッフとともに心のこもった医療を提供してまいります。

無床診療所のため、救急対応が十分にできず、島原病院の先生方にはよくお世話になっておりますが、いつも快く入院治療をしていただき感謝いたしております。

今後、ますます高齢化社会になり、病診連携が重要となります。これからもご支援をよろしくお願い致します。



長崎県島原病院 外来診療一覧表

令和1年6月1日

診療科		月	火	水	木	金
脳神経外科		林 之茂	徳永 能治 吉村 正太	徳永 能治(新患のみ) 中村 光流	林 之茂	吉村 正太 中村 光流(新患のみ)
脳神経外科急患対応		吉村 正太	中村 光流	林 之茂	吉村 正太	中村 光流
整形外科		伊藤 茂 出田 聡志	出田 聡志 荒木 貴士	伊藤 茂 山口 圭太	伊藤 茂 荒木 貴士	出田 聡志 山口 圭太
整形外科急患対応		出田 聡志	荒木 貴士(第1・3・5週) 出田 聡志(第2・4週)	山口 圭太	荒木 貴士	山口 圭太
外科	外科	蒲原 行雄 (消化器・一般・乳腺) 中山 正彦 (消化器・一般)	蒲原 行雄 (消化器・一般・乳腺) 円城寺 貴浩 (消化器・一般)	中山 正彦 (消化器・一般) 木下 綾華 (消化器・一般)	円城寺 貴浩 (消化器・一般) 黒島 直樹 (消化器・一般・乳腺) ★松尾 繁年※	木下 綾華 (消化器・一般) 黒島 直樹 (消化器・一般・乳腺)
	小児外科専門外来				小坂 太一郎※ (第1・3週14時~)	
外科急患対応		中山 正彦	円城寺 貴浩	木下 綾華	円城寺 貴浩	黒島 直樹
心臓血管外科				長崎医療センター※ (第4週)		
内科	新患	赤城 和優	勝見 真悟	山西 幹夫	木下 明敏	春田 真一
	総合内科		勝見 真悟			
	血液内科	堀尾 謙介			堀尾 謙介	
	消化器内科			山西 幹夫	勝見 真悟	山西 幹夫
	呼吸器内科	木下 明敏 ★赤城 和優	中島 章太	★赤城 和優	木下 明敏	中島 章太
	循環器内科	春田 真一	松島 吉宏※	★松島 吉宏※	春田 真一	春田 真一
	神経内科		森 正孝※ (診察は☆のとおり)	貴田 秀樹※ (第2週13時30分~16時)		
肝臓内科			柴田英貴※			
内科急患 対応	8:45~13:00	中島 章太	山西 幹夫	春田 真一	中島 章太	赤城 和優
	13:00~17:30	宮庄 浩司	赤城 和優	堀尾 謙介	勝見 真悟	堀尾 謙介
泌尿器科		平島 定	平島 定	★大学医※	平島 定	★大学医※
小児科		橋本 和彦	内田 信宏	橋本 和彦	内田 信宏	内田 信宏
小児神経専門外来 (再診患者のみ)			★西口 奈菜子※ (第1週 10時30分~)			
麻酔科			柴田 茂樹		★柴田 茂樹	
緩和ケア (予約制)		木下 明敏		山西 幹夫 ★酒井 武仁※(AM)	蒲原 行雄 ★高城 昭紀※(PM)	
放射線科		石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	★小幡 史郎 石丸 豊
リハビリテーション科				伊藤 茂(運動器)		
耳鼻いんこう科		大学医☆☆※ (9時30分~13時30分)			大学医☆☆※ (9時30分~13時30分)	
外来化学療法室		蒲原 行雄 中山 正彦	木下 明敏(第1週) 赤城 和優(第2週) 山西 幹夫(第3・5週) 堀尾 謙介(第4週)	堀尾 謙介	赤城 和優 中島 章太	黒島 直樹 木下 綾華
ストーム外来			外科医師			
検診			徳永 能治(脳ドック)		木下 明敏	

○新患受付時間は8時45分から11時までです。(なお、診療科によっては異なる場合があります)

○受付時間外に受診される場合は、急患対応となります。

○円滑な診療と患者さんの待ち時間短縮のため、緊急性がない場合は連携予約をお願い致します。

☆**神経内科診察日** 6/25、7/30、8/27、9/24、10/29、11/26、12/24、1/28、2/25、3/31

☆☆**耳鼻科受付時間は、9時から11時までです。**

○小児外科専門外来は、学会出張等で休診となることもありますので、地域医療連携室にお問い合わせください。

○緩和ケア外来は、予約のみとなっております。事前に診療情報提供書をいただき、後日予約日時をお知らせ致します。

○**皮膚科、眼科は休診中です。**

※招へい医師
★再診のみ

長崎県島原病院
内線 0957-63-1145
地域医療連携室(地域連携の予約担当)
内線 106、116(8:45-17:00)
FAX 0957-63-6544



外来受診時間

午前8:45~午前11:00

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
平成26年4月7日より小児科再開しております。
※詳しくはホームページをご覧ください。

休診日

土・日・祝日

年末年始(12月29~1月3日)

発行/長崎県島原病院

(広報委員会事務局:地域医療支援センター)

〒855-0861 長崎県島原市下川尻町7895番地
TEL 0957-63-1145(代表) 内線116 FAX 0957-63-6544
URL <http://www.shimabarabyoin.jp/>